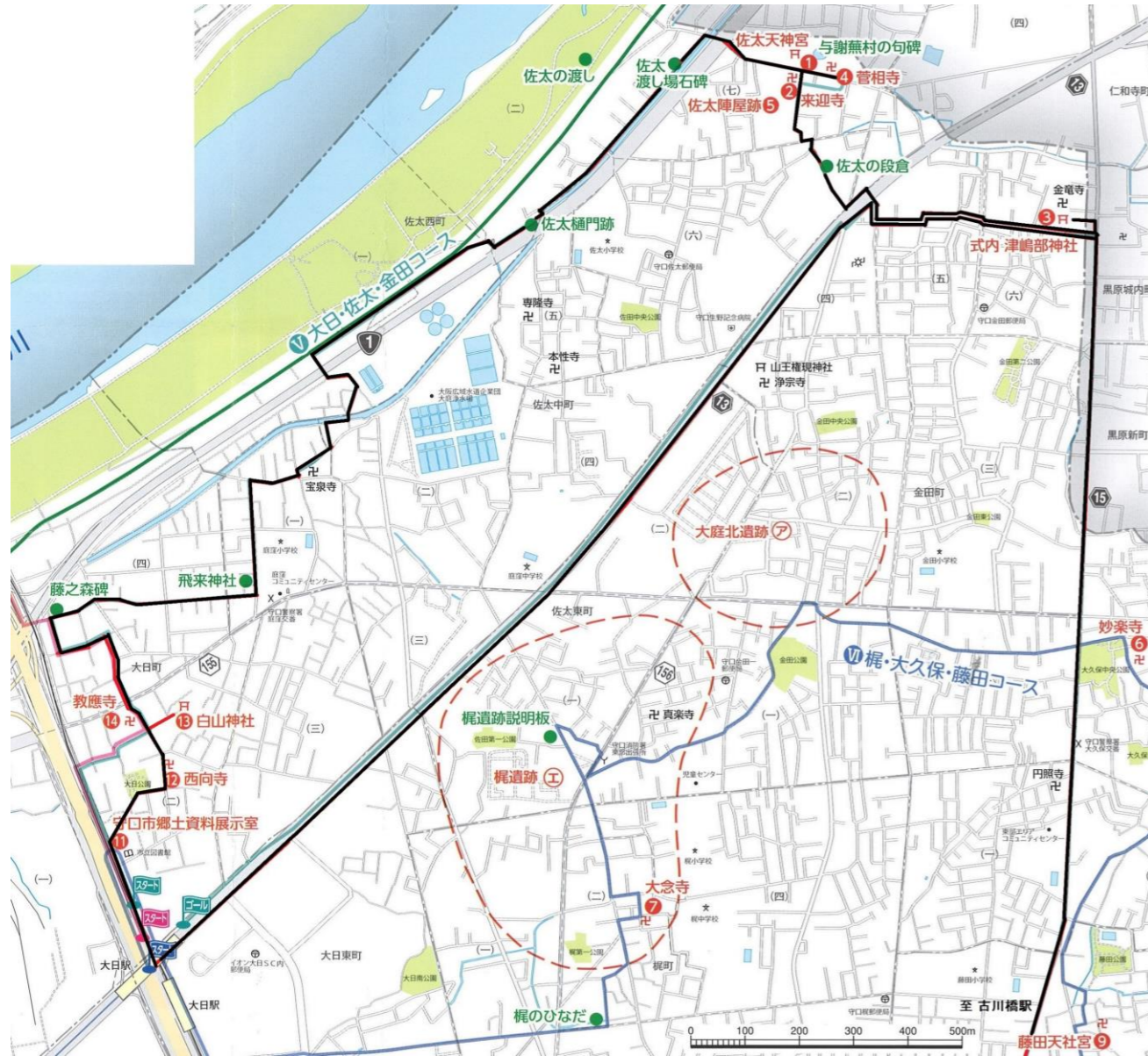


# もりぐち ぶらり歩き マップ

## 史跡散策コースV (健脚) 大日・佐太・金田コース



しらやまじんじゃ  
⑬白山神社



きょうおうじ  
⑭教應寺



ひらいじんじゃ  
○飛来神社



さたひもんあと  
○佐太樋門跡



さたとわたしばのせきい  
○佐太渡し場の石碑



さたてんじんぐう  
①佐太天神宮



かんしょうじ  
④菅相寺



らいこうじ  
②来迎寺



しきないつしまべじんじゃ  
③式内津嶋部神社

**スタート** 大阪メトロ・大阪モルレル大日駅 - (180m) - ⑪守口市郷土資料展示室 (守口市立図書館内) - (320m) - ⑬白山神社 - (60m) - ⑭教應寺 - (340m) - 藤之森碑 - (420m) - 飛来神社 - (1,100m) - 佐太樋跡碑 - (450m) - 佐太渡し場石碑 - (200m) - ①佐太天神宮 - (50m) - ④菅相寺 - (50m) - ②来迎寺 - (50m) - ⑤佐太陣屋跡 - (120m) - ○佐太の段倉 - (600m) - ③式内津嶋部神社 - (2,500m) - **ゴール** 大阪メトロ・大阪モルレル大日駅 (全 6,440m)

(○番号は守口文化財ガイドマップと共通)

(○番号は守口文化財ガイドマップと共通)

きょうどしりょうてんじしつ  
⑪ 守口市郷土資料展示室

大日の守口市立図書館 1 階に、守口市郷土資料展示室をあらたに開設しました。郷土資料展示室では、様々な実物資料や写真パネルを使って、守口市の地形・地質や、原始時代から近世・近代までの守口の歴史をたどれるよう展示をしています。



郷土資料展示室

しらやまじんじゃ・ふじのもりひ

⑬ 白山神社・藤之森碑

旧の三番村・四番村・六番村の氏神で、もとは北西に約300mの御旅所の位置にあったといわれ、今その地には「藤之森」の石碑（写真右）が建てられています。現本殿は覆屋の中に一間社流れ造の白山大権現・春日大明神の二殿が左右に並置されている。建立時期は江戸時代中期の元禄から享保の間と見られています。鳥居には「正徳五年 江戸田井三右工門秀弘 松屋町石大工仁兵衛」の銘があります。



白山神社本殿



藤之森碑

きょうおうじ  
⑭ 教應寺

高林山教應寺と号し、現在は浄土真宗本願寺派の寺院です。創建については詳らかではありませんが、本尊の阿弥陀如来立像からみて、江戸時代前半の建立かと思われます。山門横の釣鐘は明治時代に東三国の大願寺から買い取ったものですが、宝暦7年(1757)の銘を有する由緒深いものです。



教應寺鐘楼

ひらいじんじゃ  
○ 飛来神社

佐太天神宮の旧御旅所で、江戸時代中期に天之御中主神が勧請され、さらに菅原道真が昭和35年に合祀されました。



飛来神社境内

さたひあとひ  
○ 佐太樋跡碑

佐太樋は旧二番村字井ノ口にあり、「二番井ノ口樋」と呼ばれ、明治以降は「佐太樋」ともよばれました。この樋から大庭庄・門真庄の11ヶ村が用水を引いていました。



佐太樋跡碑

さたわたしばせきひ  
○ 佐太渡し場石碑

淀川佐太の渡しの記念碑です。現在は、佐太天神宮から国道1号線を西にわたり、さら淀川左岸水路にかかる天神橋を西に渡った植込みの角に建てられています。



佐太渡し場石碑

さたてんじんぐう  
① 佐太天神宮

菅原道真が太宰府へ流される途中、舟を繋いだ処で、菅公死後の天暦年間(947~57)に祠が建てられたのが創建とされています。現在の社殿は領主永井尚政・尚庸父子や豪商淀屋辰五郎等の保護のもとに整備され、寛永17年(1640)建立の本殿、慶安元年(1648)の石門・拝殿・幣殿等、江戸初期の建物が残されており、平成15年に本殿・幣殿・拝殿が大阪府の有形文化財に指定されました。

また、文安3年(1446)の箱書きのある紙本著色天神縁起絵巻6巻のほか、狩野探幽の絹本著色十一面観音画像をはじめ、江戸時代初期の美術品が数多く奉納されています。

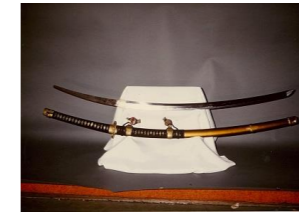
金梨子地塗糸巻太刀拵えに納められた大和守安定の太刀は寛文10年(1670)の銘があり、大阪府指定有形文化財となっています。



佐太店神宮拝殿



石門から本殿を望む



佐太天神宮太刀

かんしょうじ  
④ 菅相寺

平安時代中期の創建と考えられ、かつては境内も広大であったらしい。当初は真言宗でしたが、正保元年(1644)に永井尚政が萬安禅師を招いて曹洞宗に改宗し、現在は宇治興聖寺の末寺となっています。本堂は慶安4年(1651)永井家が再建したもので、小規模ながら市内の仏堂建築としては最古のものとして貴重です。また、境内に残る石製露盤(花崗岩製)も室町時代の遺品として極めて貴重なものです。



菅相寺石製露盤

らいこうじ  
② 来迎寺

実尊誠阿上人が貞和3年(1347)に下仁和寺庄守口村に一字を建立したのが始まりとされ、延宝6年(1678)に現寺地を寄進され定堂して発展しました。享保3年(1718)再建の客殿及び玄関、明和2年(1765)再建の庫裏、安永4年(1775)の長屋門、江戸時代後期の表門(四脚門)・土塀などが残されています。

また、当寺に伝わる絹本著色八幡曼荼羅図は国の重要文化財に指定されており、絹地に彩色で男山八幡宮の七社の神像を巧みに描いた鎌倉時代の優品です。寺庭の石造十三重塔は嘉元2年(1304)「寺講衆四十余人」の銘文がり、鎌倉時代の石塔として大阪府指定有形文化財となっています。



石造十三重塔

さたじんやあと  
⑤ 佐太陣屋跡

旧大庭一番村の領主永井尚庸は貞享4年(1687)に下野烏山藩へ転封され、それまで陣屋を置いていた交野郡渚村(枚方市)は幕領となりました。

そのため、京・大坂間の交通及び軍事上の要地に適し、佐太天神宮のあるこの地に陣屋を移しました。これが佐太陣屋で、永井氏の蔵屋敷の役目も兼ね、年貢米の納入や特産物を集積し、大坂での取引や藩の金融業務など、永井氏の台所の役割を担っていました。

現地には、来迎寺南側との境界に復元した石垣が残されています。



(復元) 佐太陣屋跡の石垣

さたのだんぐら  
○ 佐太の段倉

屋敷地に3棟の土蔵が連なりませんが、北西隅の土蔵の石垣が最も高く、段々に南ほど低くなっています。



佐太の段蔵

しきないつしまべじんじゃ  
③ 式内津嶋部神社

津嶋部神社は『延喜式神名帳』に記された式内社で、津嶋女大神、素戔鳴尊、菅原道真を祭神としています。元禄年間(1688~1704)再建の社殿は、明治15年(1882)再建の現在の社殿と同規模で、当時の隆盛がうかがえます。当社に残る慶長13年(1608)の銘をもつ笏谷石製狛犬は、府下で最古の紀年銘をもつ狛犬で、平成12年に市有形文化財に指定しました。



津嶋部神社石製狛犬